

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

●建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

### ■取付け上のおお願い

- フリクションステーに潤滑剤、洗剤を塗布しないでください。トルクが無くなり、任意位置での固定ができなくなります。
  - 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
  - 建具のかい木には、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
  - 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
  - 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
  - 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
  - 建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
  - 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
  - 枠の組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
  - 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
  - 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつくって納めてください。
  - 建具枠と柱・間柱・まぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
  - かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
  - 建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
  - 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。
  - 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
  - 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
  - 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
  - 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
  - 上枠をクロス巻き仕上げを行う場合は必ず裏面に木工用接着剤を塗布してください。クロスにシワが発生する場合があります。
- ### ■本体保管上のおお願い
- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所
    - ・昼夜などで温度差の激しい場所
    - ・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

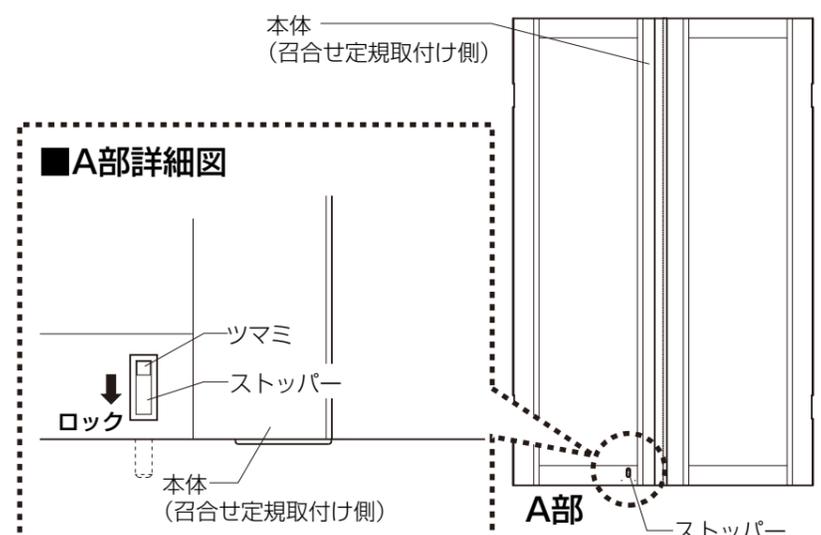
### ■本体の開閉操作上のおお願い

#### ■ストッパーの使用法

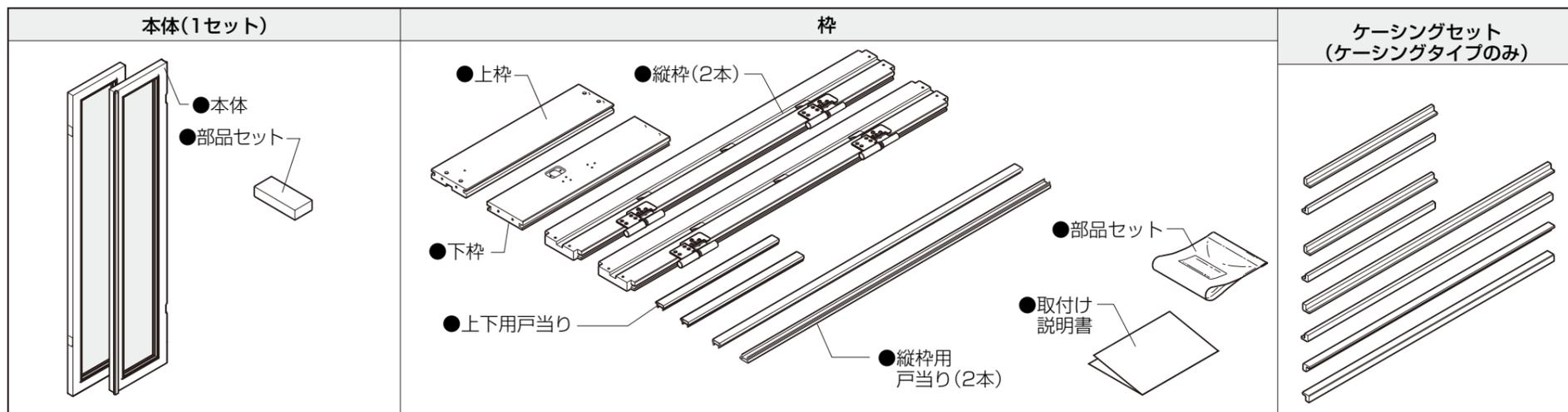
- 扉を閉めた状態で任意の位置でつまみを下げると、ロックがかかり本体が開かなくなります。
- ※ストッパーは簡易固定用です。ぶつかったりすると本体が開くことがあります。

#### ●お願い

※扉を閉めたときは、ストッパーでロックしてください。ロックしないと、強風などで扉が開くことがあります。



## ■部品・部材の明細



### ■枠セット明細

	員数
縦 枠	2
上 枠	1
下 枠	1
部品セット	1
取付け説明書	1
戸当り	縦2・上1

### ■本体セット

本体	2
部品セット	1

### ■本体丁番ねじセット (枠に同梱、丁番にテープ止め)

本体取付けねじ (なべタッピンねじφ4×20)	8本×2セット
----------------------------	---------

### ■部品セット明細(枠セット用)

組立用皿小ねじM4×50	8本
躯体取付用DNビス(皿木ねじ) φ3.8×50	10本
木口シール(NC枠用)	4枚
木口シール(C付枠用)	4枚

### ■部品セット明細(本体セット用)

召し合せ補強金具	1個
召し合せ補強金具固定ねじ 特平木ねじφ3.8×20	2本
ステー固定ねじ 皿小ねじM4×16	4個
把手	2セット

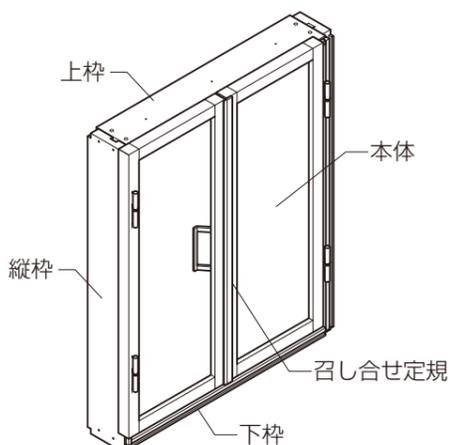
### ■ケーシングセット明細

上用ケーシング	4
縦用ケーシング	4

### ■取付け範囲(単位: mm)

	ケーシングタイプ		ノンケーシングタイプ		
	薄壁用	厚壁用	NC156	NC171	NC180
対象壁厚	111~141	142~182	116~130	131~145	146~160

## ■構成図

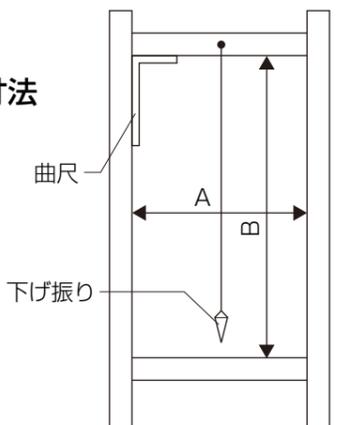


## ■開口部の作り方

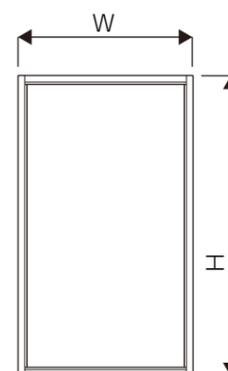
※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

### ●開口寸法



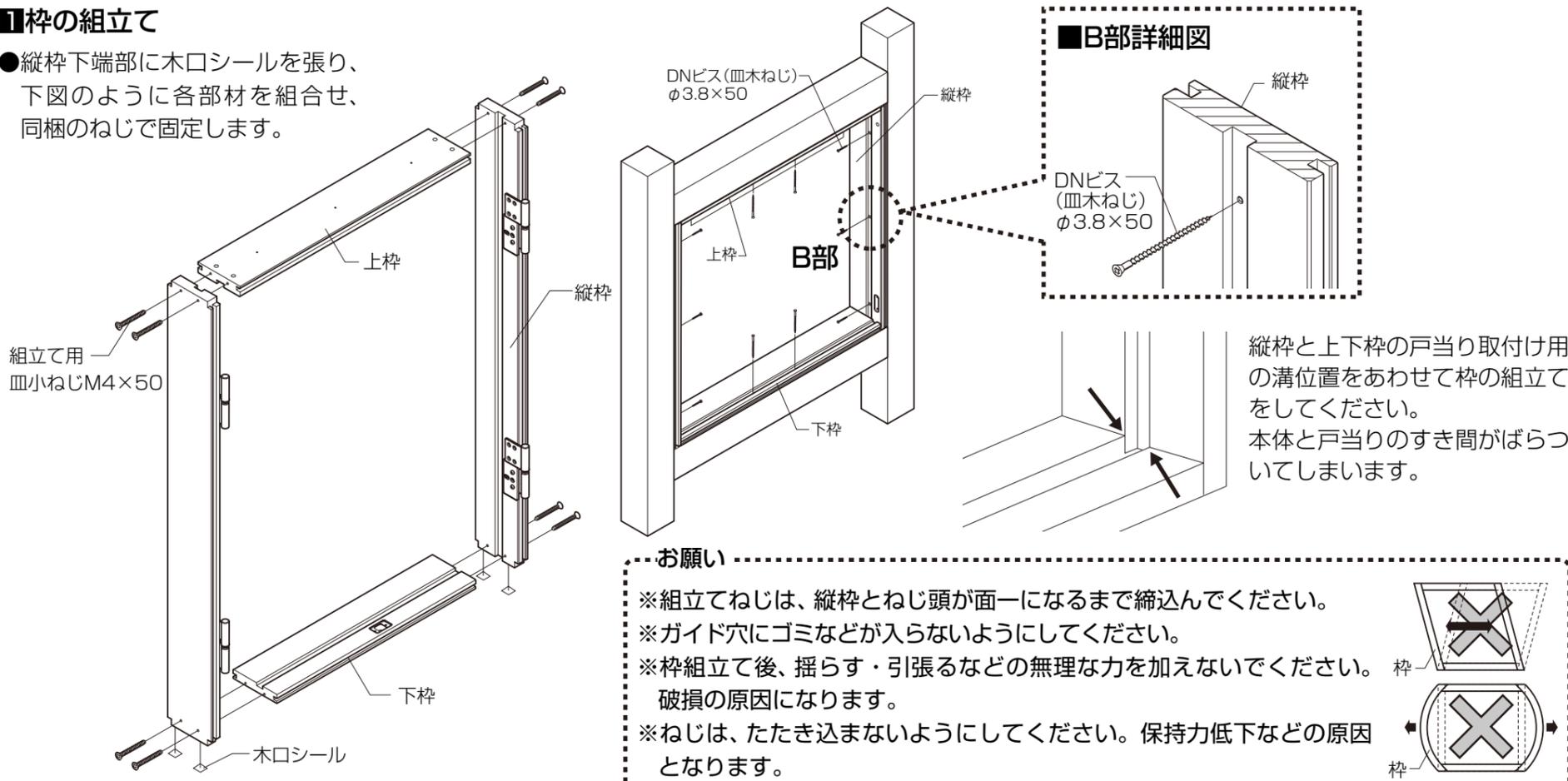
### ●製品寸法



## ■取付け順序

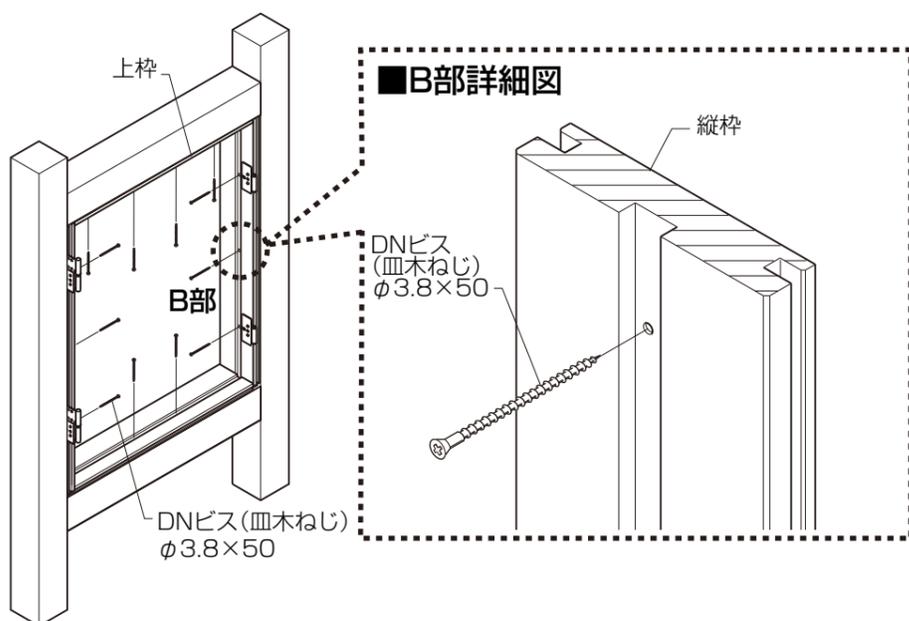
### 1 枠の組立て

●縦枠下端部に木口シールを張り、下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。



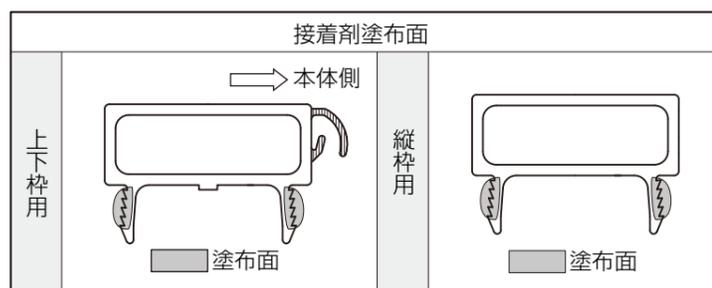
## 2 枠の取付け

- ① 枠を開口部に固定します。
- ② 上枠とまぐさ、縦枠と柱のすき間にかい木を入れ、本固定します。



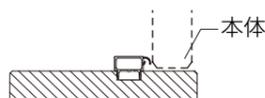
## 3 戸当りの取付け

- 戸当りの足の外側(リブのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください。
- 接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ずふきとってください。
- ※ 上枠用→下枠用→縦枠用の順に取付けてください。

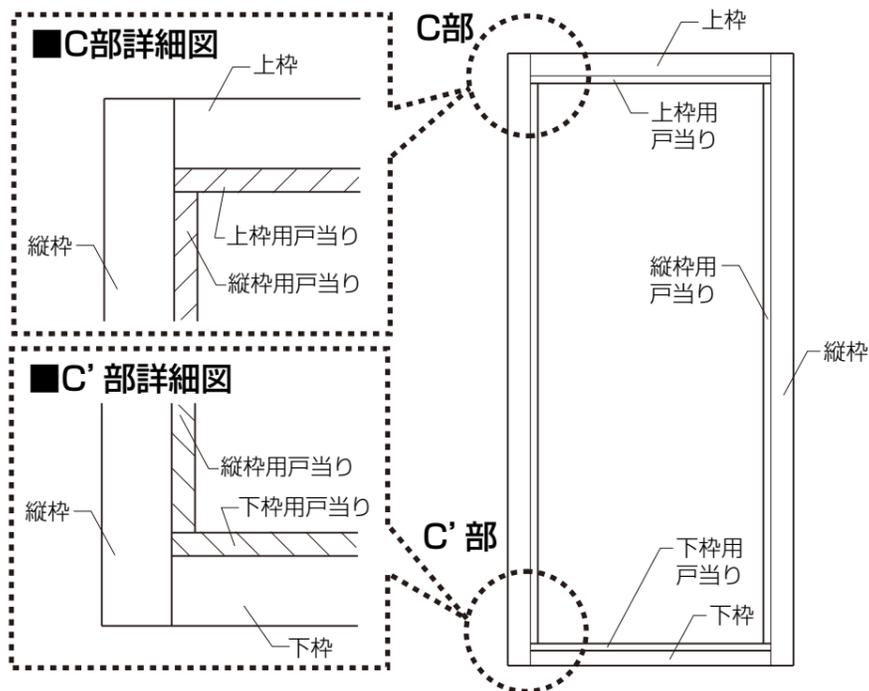


戸当り長さ  
縦枠用：L850.5  
上下枠用：L685.5

- 戸当り取付け向き

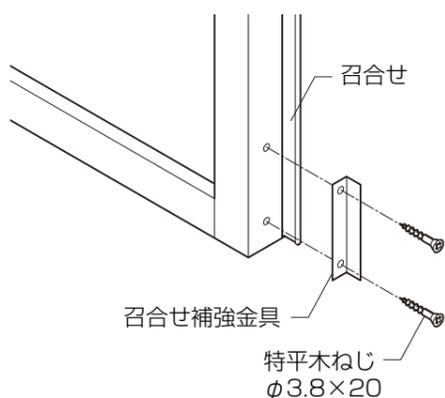


お願い  
※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。



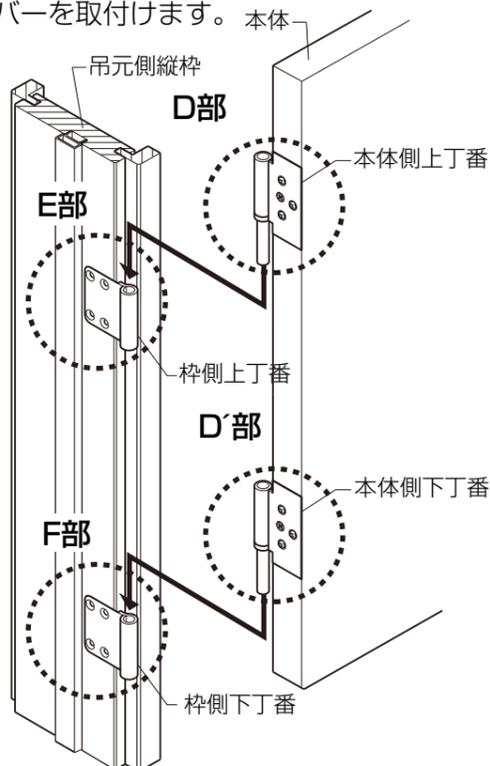
## 4 召合せ補強金具の取付け

- 召合せ側本体下部に補強金具をねじ固定します。

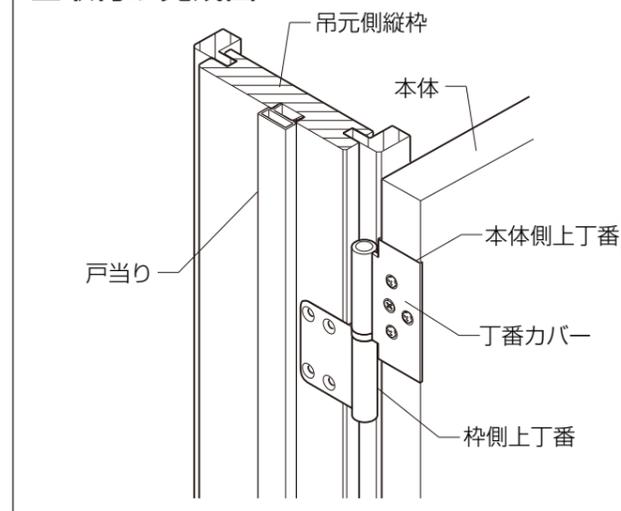


## 5 窓本体の取付け

- ① 丁番カバーをはずします。
- ② 本体に、本体側丁番をなべタッピンねじφ4×20(枠側丁番にテープ止め)で取付けます。(D・D'部)
- ③ 上下の本体側丁番の軸を上下の枠側丁番にそれぞれ差込みます。(E・F部)
- ④ 上丁番カバーを取付けます。
- ⑤ 下丁番カバーを取付けます。



## 取付け完成図



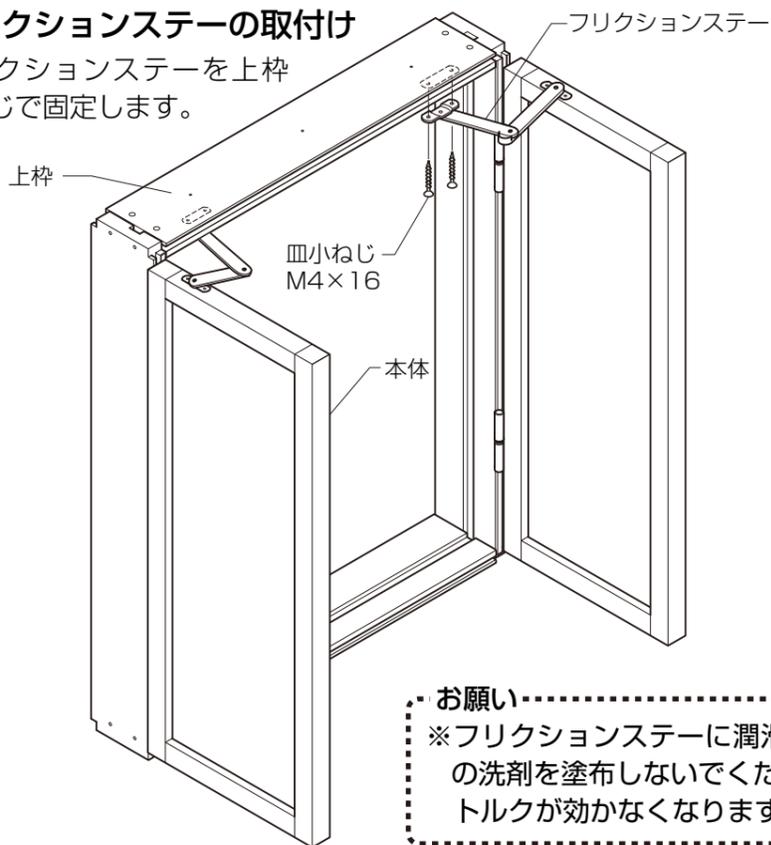
- お願い
- ※ 本体を保管する際は、下記の状況にあたる場所には置かないでください。
    - ・ 直射日光の当たる場所
    - ・ 昼夜などで温度差の激しい場所
    - ・ 湿気の多い場所
 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
  - ※ 長期にわたる本体の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。
 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
  - ※ ケーシング等が干渉し、本体が取付けられない場合は丁番を本体側に取付けた状態で枠に丁番をビス固定してください。
  - ※ 丁番軸部にホコリ、木クズなどがつかない様注意してください。音鳴りの原因になります。

### 注意

- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

## 6 フリクションステーの取付け

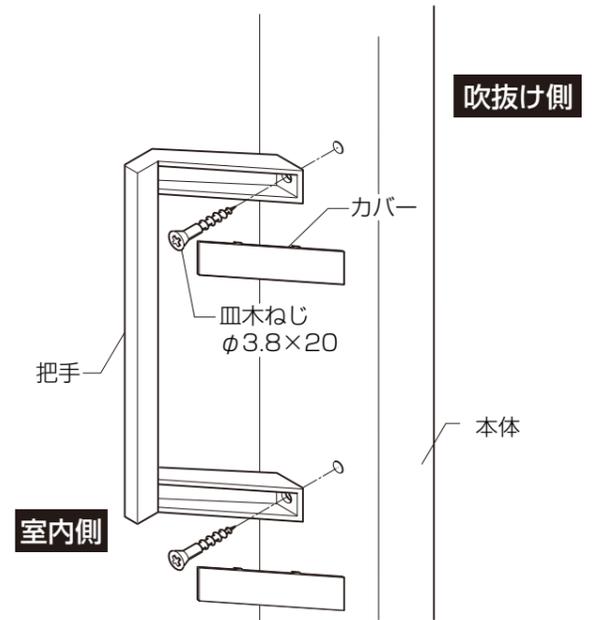
- ①フリクションステーを上枠にねじで固定します。



お願い  
※フリクションステーに潤滑剤や清掃用の洗剤を塗布しないでください。トルクが効かなくなります。

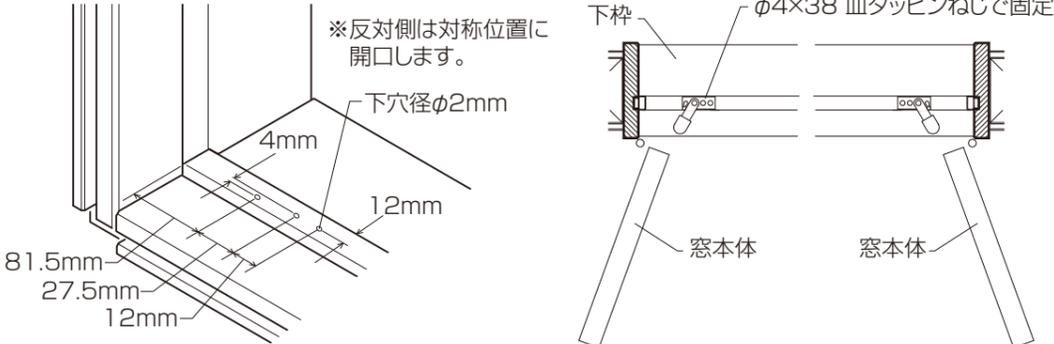
## 7 把手の取付け

- 把手を付属の固定ねじ(皿木ねじφ3.8×20)で固定します。  
※手まわしドライバーを使用してください。

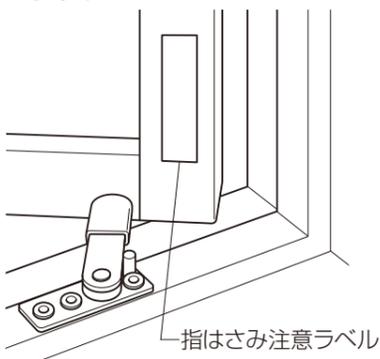


## 8 指はさみ防止部品の取付け(オプション)

- ①縦枠戸当りに指はさみ防止部品の下穴を開口します。(3箇所)  
②指はさみ防止部品をビス固定します。

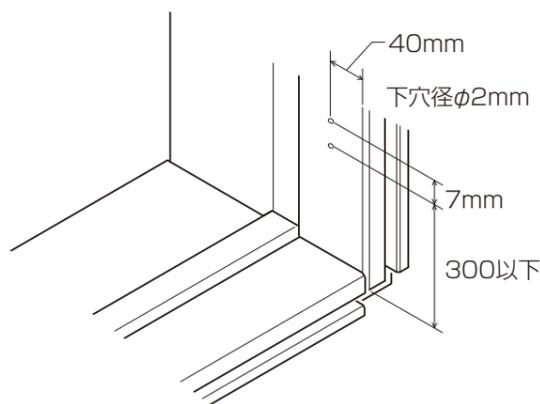


- ③指はさみ注意ラベルを窓框に貼付けます。

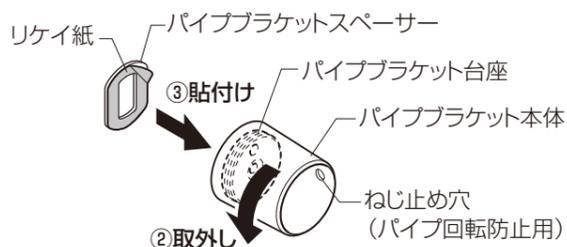


## 9 落下防止バーの取付け(オプション)

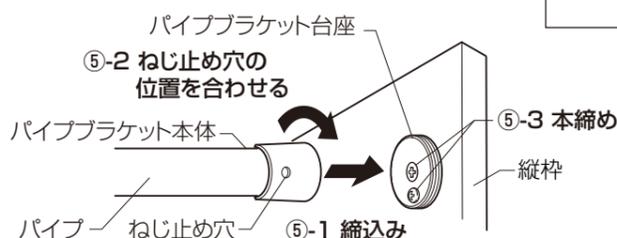
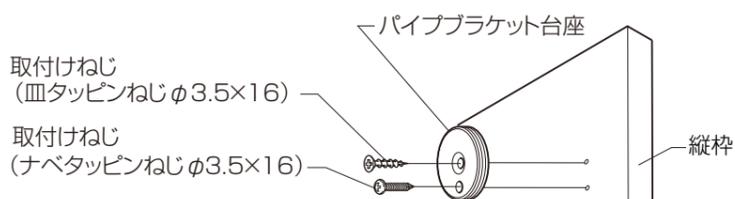
- ①パイプブラケット取付位置に下穴を開口します。



- ②パイプブラケット本体を回転させ、パイプブラケット台座を外します。  
③パイプブラケットスペーサーのリケイ紙をはがし、パイプブラケット台座の裏面に貼付けます。  
④パイプブラケット台座を縦枠の下穴に合わせ、取付けねじで固定します。  
※パイプブラケット台座中央の皿穴は皿タッピンねじφ3.5×16、もう一方の穴はナベタッピンねじφ3.5×16で固定してください。  
⑤パイプを開口寸法に合わせて切断します。  
⑥パイプブラケットにパイプを通し、パイプブラケット台座に取付けます。  
⑦ドリルねじでパイプを固定します。



■パイプカット寸法  
= 開口寸法 - 16mm

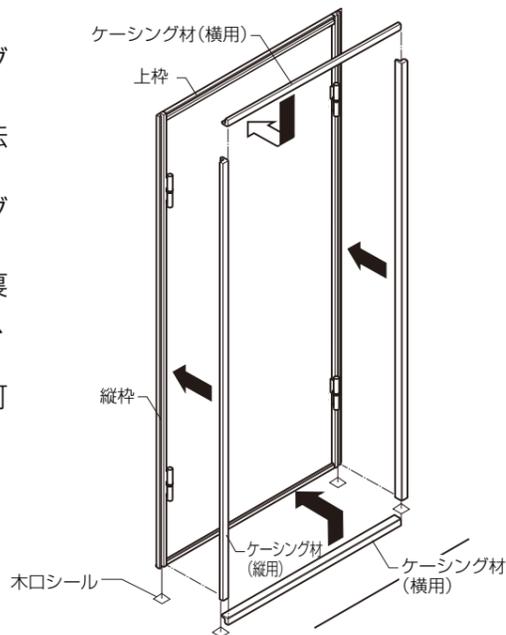


## 10 ケーシング材の取付け

※壁材を仕上げしてからケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。

※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

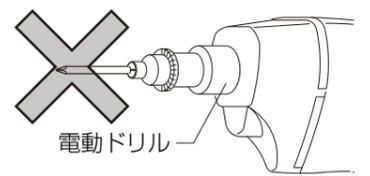
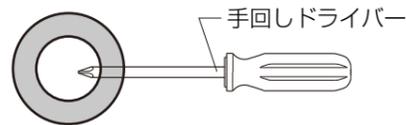


## ■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドリルは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。

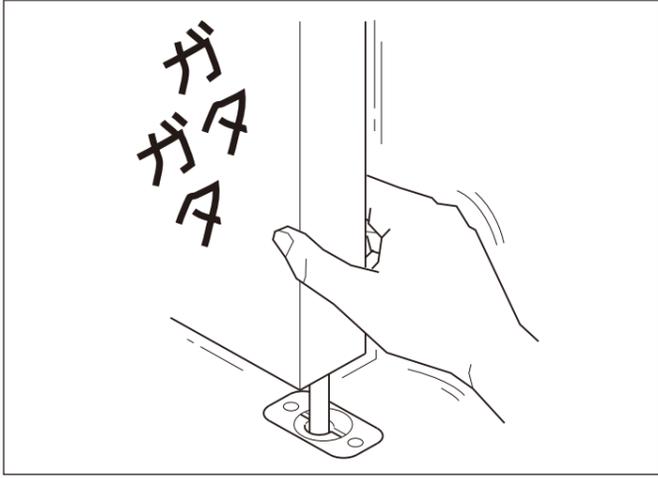
※上下方向の調整は基本的に不要ですが、やむを得ず行う必要がある場合は、丁番同梱の樹脂ワッシャを追加、削除することにより調整が可能です。



左右の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。</p> <p>● 調整幅は、吊元側に1.2mm、開き側に2.0mmです。</p>	<p>1. 本体同士が当たる。</p>	<p>① 固定ねじを2カ所ゆるめる。</p> <p>② 左右調整ねじを左に回して本体を吊元側に移動し位置を決める。</p> <p>③ 固定ねじを締める。</p>	<p>2. 召し合せのすき間が大きい。</p>	<p>① 固定ねじをゆるめる。</p> <p>② 左右調整ねじを右に回して本体を開き側に移動し位置を決める。</p> <p>③ 固定ねじを締める。</p>

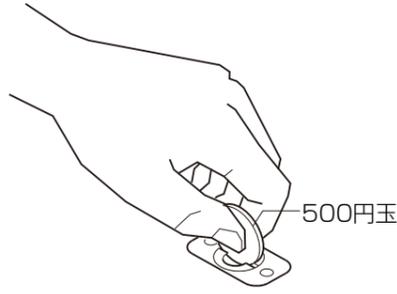
前後の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。</p> <p>● 調整幅は、±2mmです。</p>	<p>1. 左側の枠が前に出ている。</p>	<p>① 固定ねじをゆるめる。</p> <p>② 前後調整ねじを左に回して本体を前に移動させる。</p> <p>③ 固定ねじを締める。</p>	<p>2. 右側の枠が前に出ている。</p>	<p>① 固定ねじをゆるめる。</p> <p>② 前後調整ねじを右に回して本体を後に移動させる。</p> <p>③ 固定ねじを締める。</p>

■扉のガタツキ調整(ストッパー受けによる調整)

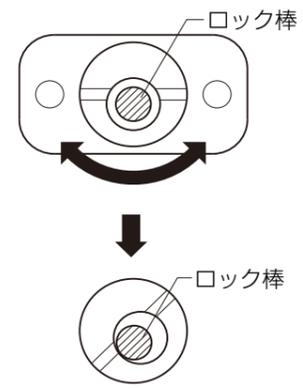


■扉がガタつく

①コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をストッパー受けの内側に当てるようにしてください。



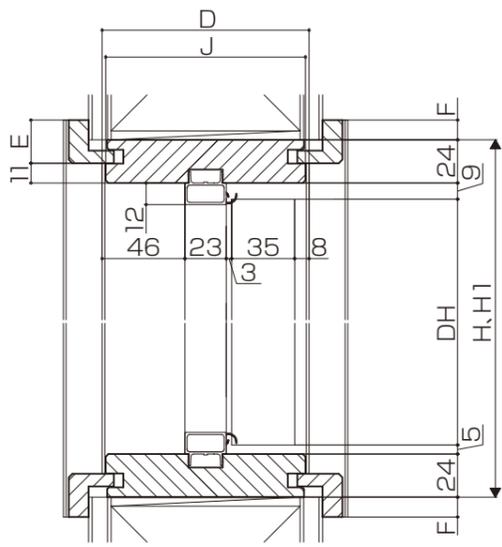
【ストッパー受け】



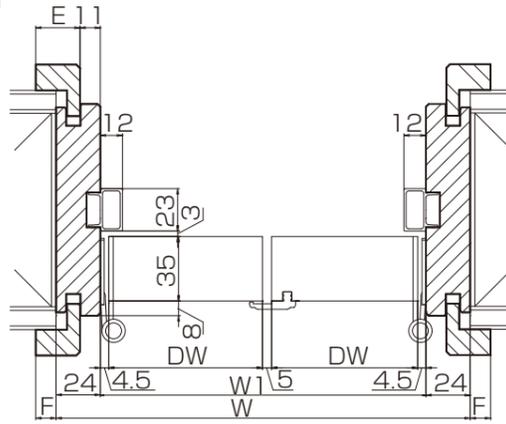
■納まり図

【ケーシングタイプ】

■縦断面図



■横断面図



W呼称	W	DW	W1
07	734	336	686

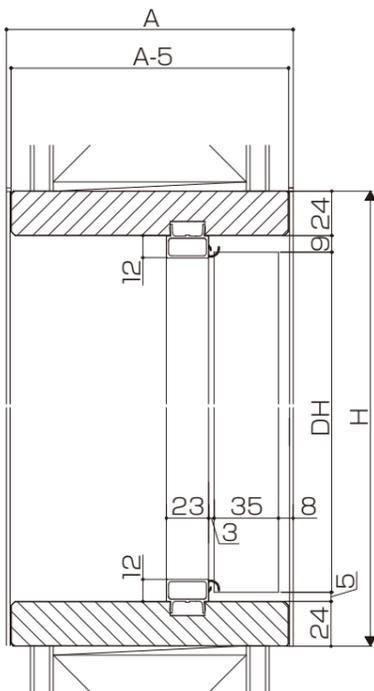
H呼称	H	DH	H1
09	923	861	923

	E:見付け	足長さ	F
L型ケーシング	24	14 19	11

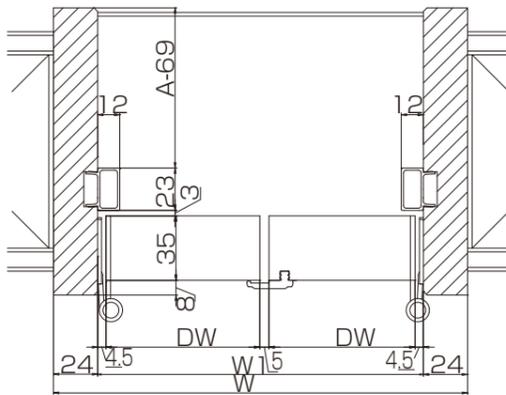
	D	J
薄壁	114	111
厚壁	142	138

【ノンケーシングタイプ】

■縦断面図



■横断面図



W呼称	W	DW	W1
07	734	336	686

H呼称	H	DH	H1
09	923	861	923

	A
NC156	156
NC171	171
NC180	180